

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	200,000	仮受金	200,000
2	給料	600,000	従業員立替金	40,000
			所得税預り金	60,000
			現金	500,000
3	仕入	500,000	前払金	100,000
			支払手形	400,000
4	交通費	9,000	当座預金	20,000
	消耗品費	7,000		
	雑費	4,000		
5	有価証券	1,960,000	当座預金	1,500,000
			当座借越	460,000

・解説

## 1. 仮受金に関する問題です。

仮受金は、入金の実態があるものの相手勘定や入金された理由などが不明な場合に、一時的に計上する勘定科目です。本問は、問題文の「その内容は現時点で不明である」という一文から、仮受金勘定を使って処理すると判断します。

## ■ 仮受金と前受金の違いについて

- ・ 仮受金…内容が不明のお金を受け取った場合に仮に計上する勘定
- ・ 前受金…商品売買に先立ってお金を受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。

## ■ 送金小切手の受け取りについて

送金小切手を受け取った場合は**現金の増加**として処理します。送金小切手の他にも、以下に列挙するものを受け取ったさいには現金の増加として処理します。間違えやすいところなので、きちんと押さえておいてください。

- ・ 配当金領収証
- ・ 期限の到来した公社債利札
- ・ 他店振出小切手
- ・ 郵便為替証書

仮受金に関する問題は、第 108 回の問 5 や 第 130 回の問 1 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 所得税の源泉徴収に関する問題です。

この問題は【立替払いに関する仕訳】と【所得税の源泉徴収に関する仕訳】と【現金払いに関する仕訳】の3つに分けて考えましょう。

【立替払いに関する仕訳】

まず「先に立替払いしていた従業員の生命保険料 ¥ 40,000」ですが、立て替えた時の仕訳をイメージしたうえで解答仕訳を考えると分かりやすいです。

☆参考・立替時の仕訳

(借) 従業員立替金 40,000 / (貸) 現金など 40,000

★解答①

(借) 給料 40,000 / (貸) 従業員立替金 40,000

【所得税の源泉徴収に関する仕訳】

次に「所得税の源泉徴収分 ¥ 60,000」ですが、これは所得税を給料から天引きしておいて、後で会社がまとめて税務署に納税するものなので、天引き段階では「所得税預り金」勘定で処理します。

★解答②

(借) 給料 60,000 / (貸) 所得税預り金 60,000

【現金払いに関する仕訳】

最後に現金払いに関する仕訳ですが、これは簡単なので特に問題ないと思います。

★解答③

(借) 給料 500,000 / (貸) 現金 500,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第102回の間4、第106回の間5、第109回の間2、第117回の間4、第128回の間4、第130回の間3、第131回の間4、第140回の間4、第142回の間2、第143回の間5、第145回の間5などでも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 仕入に関する問題です。

本問題は【手付金に関する仕訳】と【約束手形に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【手付金に関する仕訳】

問題文に「注文時に支払った手付金 ¥ 100,000」とあるので、注文時に切った仕訳をまず考えたうえで、それを踏まえて解答すべき仕訳を導き出しましょう。

☆注文時に切られた仕訳

(借) 前払金 10,000 / (貸) 現金など 10,000

★解答仕訳①

(借) 仕入 10,000 / (貸) 前払金 10,000

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「残額については、藤田商店あての約束手形を振り出して支払った」とあるので、残額の 400,000 円 (= 500,000 円 - 100,000 円) については支払手形勘定で処理します。

★解答仕訳②

(借) 仕入 400,000 / (貸) 支払手形 400,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

4. 小口現金に関する問題です。

小口現金の仕訳は、【支払いに関する仕訳】と【補給に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【支払いに関する仕訳】

小口現金から支払った経費を計上します。仕訳自体は簡単なので特に問題ないと思います。

★解答仕訳①

(借) 交通費 9,000 / (貸) 小口現金 20,000

(借) 消耗品費 7,000

(借) 雑費 4,000

【補給に関する仕訳】

問題文に「当店では、定額資金前渡制度（インプレストシステム）により、小口現金係から毎週金曜日に一週間の支払報告を受け、これにもとづいて資金を補給している」とあるので、支払額合計 20,000 円と同額の小切手を振り出して小口現金を補給します。

★解答仕訳②

(借) 小口現金 20,000 / (貸) 当座預金 20,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。なお、本問は問題文に列挙されている勘定科目に「小口現金」がないので、借方と貸方の小口現金勘定は相殺します。

小口現金に関する問題は、第 103 回の問 2や第 105 回の問 3、第 112 回の問 4、第 113 回の問 5、第 126 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。いずれの問題もほとんど同じ形式で何度も出題されています。

5. 有価証券の購入と当座取引に関する問題です。

まず有価証券の購入に関しては、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上します。

取得原価 = 購入代価 + 付随費用 = 2,000,000 円 × 97.50 円 / 100 円 + 10,000 円 = 1,960,000 円

次に当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つがありますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題に列挙されている勘定科目に**当座預金・当座借越勘定がある（当座勘定がない）**ので、2勘定制で処理すると判断します。

#### ■当座預金勘定と当座借越勘定を使う2勘定制（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上や有価証券の売却など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問は、問題文に「**当座預金の残高は、¥ 1,500,000 である**」とあるので、まずは当座預金勘定を減額し、それでも足りない460,000円（=1,960,000円-1,500,000円）を当座借越勘定で処理します。

#### ★解答仕訳

(借) 有価証券 1,960,000 / (貸) 当座預金 1,500,000  
(貸) 当座借越 460,000

#### ■当座勘定のみを使う1勘定制（参考）

参考までに1勘定制による場合の仕訳も確認しておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って機械的に処理するだけなので2勘定制よりも簡単です。

#### ☆参考仕訳

(借) 有価証券 1,960,000 / (貸) 当座 1,960,000

有価証券の購入に関する問題は、第103回の間5や第108回の間4、第119回の間2、第124回の間5、第133回の間1、第138回の間1、第143回の間1、第148回の間3で出題されています。

また、当座取引に関する問題は、第100回の間2や第103回の間5、第104回の間2、第105回の間1、第114回の間5、第122回の間2、第125回の間5、第129回の間1、第133回の間1、第134回の間3、第135回の間5、第136回の間5、第137回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。